

観自在

弘長寺寺報
第二十二号
平成二十三年一月

弘長寺本堂大改修

いよいよ本年九月着工です

あけましておめでとーございます。

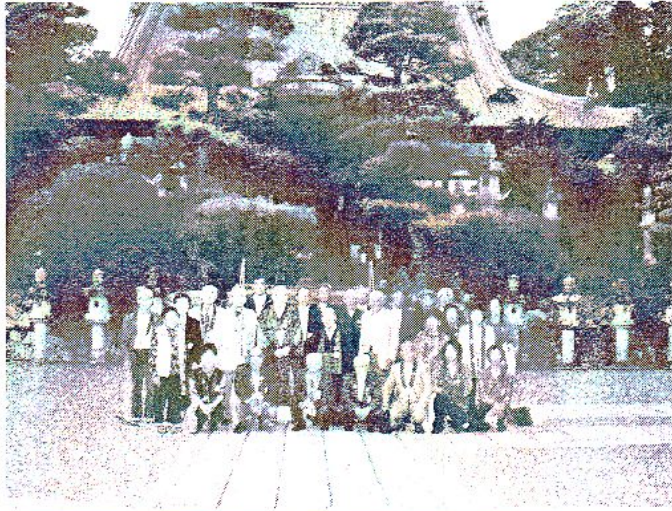
弘長寺住職 森田裕光

記録的な豪雪で新しい年を迎えました。

特に雪が深く、停電の苦痛で越年された上来待・大谷・柳井地区の皆様には改めてお見舞い申しあげます。

本堂大改修事業が、いよいよ本年九月着工となります。

工事が開始されますと来年五月迄の九月ヶ月間は、書院を本堂代わり、にしたり、阿弥陀堂(位牌堂)も入り口がふさがれますので使用できなかつたり



弘長禅寺二泊三日研修旅行 (10/13~15)

秋葉三尺坊大権現総本殿：可睡齋専門僧堂法堂前にて
堂長：安来市松源寺住職、佐瀬道淳老師様と記念撮影

で、ご不自由をおかけしませんがどうかご理解とご協力の程よろしくお願ひ申しあげます。

既に志納された方もいらつしやいますが、時期を見計らつて特別寄付のお願いをさせていただきます。たく所存です。

(文書にてお送りさせていただきます)

脇間の壁にお名前と全志納額(課当志納+特別寄付)を木札に書き込んで顕彰いたします。

菩提寺の本堂を手がけることは、何百年に一度のまさに得難い大事業です。

仏様の為、お寺の為、両親・祖父母・先祖代々の為、子々孫々の為、そしてもちろんご自分の為に、お願いすることばかりで恐縮でございますがどうか将来二度と来ないこの機を逃されないように、よろしくよろしくお願い申し上げます。



弘法修行大師御尊像再建立開眼落慶式典

11月21日(日)晴天下、佐倉：真言宗岩屋寺様を御導師にお迎えして、厳肅盛大に執り行われた。

菩提寺本堂

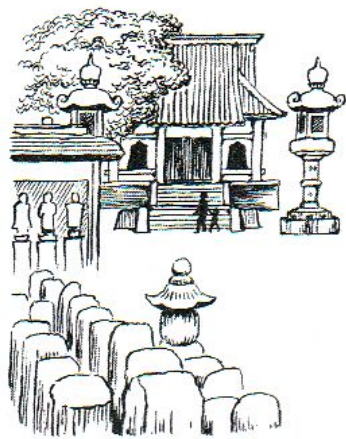
耐震修改築着工の年

弘長寺護持会

会長 武田民三

あけましておめでとうございませう。

今年新しい年を迎える喜びに併せ、檀家のどなたもが等しく念願をしていました本堂耐震修改築工事が愈々着工される、誠に目出度い、しかも極めて得難い年を迎えることであります。この大事業を現実のものとして始動できることは、ひとえに寺檀一如の結実であり、その結晶の賜と感激のほかございませう。めつたに巡り合うことができない勝縁を与えて頂くからには檀家一同が応分に「捨徳」を積ませて頂きました。



いものでございます。

そのために本堂耐震修改築事業の資金は、お檀家のどなたもが喜捨をさせていただけのように、一般の寺社の寄付としては異例ともいえる五カ年にわたる二十回分割納金方法でお願いをする事に致した次第であります。

そのためには地区委員の皆さまの格別のご理解とご協力を賜り集金業務に携わっていただいております。

これこそが、方丈さまのお言葉である「寺檀和合」の実践をさせて頂く姿ではないでしょうか。

全檀家が心を一つにしてこそ、偉大な力を発揮できると信じております。

「正法眼蔵随聞記」に示されてある道元禪師さまのお言葉に……

切に思う心

必ず方便も出来りて

天地善神の冥加もあ

『何とか成し遂げたいと

一心に願っていると、必ず手だてがみつかり、あらゆる神佛のご加護も加わって願いが叶う』（仏教企画刊「道元瑩山両祖のことば」）とあります。



道元禪師さまが比叡山で修行のとき、「もともと人が佛であるならば、どうして苦しい修行をしてまで悟りを開かなければならぬのか」との疑問をもたれて中国に渡り寺院を巡られ、「本當の悟りは、知識だけではなく実際に行を通して心身ともに会得しなければ理解することはできない」とお悟りになったと教えられています。

るのであります。

本堂修改築にあたり私たちは喜捨の心で、この大業の資金を献資させて頂く機会を与えられているのだと有り難く考えましょう。

方丈さまが弘長寺報第二十号の「誌上法話」でお説きになられている「布施とは何か？」の中に、「金額の多少ではなく私の大事な物を差し出させていただきませう」という思いを込めて布施をしなければ布施とはいわないと教えておられます。

お陰（功德）を求め心を捨て去ったところに初めて真の功德が現れてくるとも仰せであります。

これこそが本當にありがたい（有り難い）ことでもあります。

「ありがとう」とは有り難しであり、めつたにない幸運をあなたとの縁でいただき、うれしいと感謝するこゝとであるとも教えてくださいます。

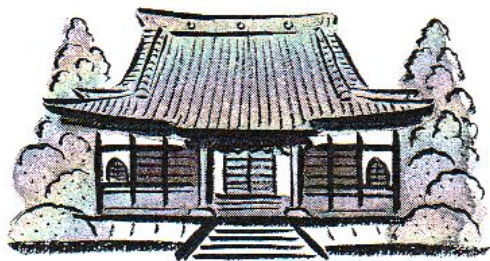
お釈迦さまは「人は生まれに依つて貴いのではなく、行いや生き方で決まる」と説かれ、前世の因縁や身分制度に縛られた人々に希望

を与えられたのです。
 「だから、「ありがとう」
 には、あなたは佛さまの代
 わりです、という気持ち
 が込められているのである、
 と。」
 (四季社刊「あつと驚く佛
 教語」)

これから始まる工事を施
 工してくださる関係業者の
 方々とも心を一つにして、
 この事業を推進してまいり
 ます。

お檀家の皆さまと一緒に
 この修築事業が無事大
 円成することを願いつつ、
 新年の挨拶といたします。

ありがとうございます。
 合掌



新年を迎えて

護持会副会長

坂本研次

いろいろな思いのまま昨
 年が過ぎましたが、新しい
 年を迎えますと又心も新た
 になります。

さて、「本堂耐震改築工
 事」につきましましては、日頃
 から檀家各位には、格別
 のご協力を賜り、厚く御礼
 もうしあげます。

ご存知のように弘長寺は
 弘長三年(一二六三年)に
 創建されて以来七五〇年の
 長きに亘り法灯が守られ、
 また先年改築されました阿
 弥陀如来堂は、五百年近い
 歴史があります。

今に生きる私たちには、
 これを次に引き継ぐことの
 大切な役を引き受けている
 ことを実感いたします。
 大変なことながら有り難
 いことと思っております。

秋からはいよいよ「槌音」
 高く、荘厳で、ゆるぎのな
 い本堂の改築工事に着工す
 ることとなります。
 皆様も時々歩を進めて見
 守って下さい。

引き続きよろしくお願い
 もうしあげます。

合掌



新年に思う

情けは誰のため

護持会副会長

内田松寿

あげましておめでとうご
 ざいます。
 新しい年が穏やかでお幸
 せでありますようにお祈り
 申し上げます。

寅年の一年を振り返ると、
 世相を現す漢字は「暑」。
 あの暑さは初めての体験
 だった。それが、それも喉元過ぐ
 ればの類。
 元旦はいつものように家
 でお屠蘇を祝い、来待神社
 での歳旦祭(元旦祭)、地
 区新年会で始まった。

初詣では私たちはここぞ
 とばかりに沢山のお願いご
 とをします。
 「健康でありますように。
 何事もなく平穩に過ごせま
 すように、それから・・・」。

しかし、「禅の友」を読
 んでいて反省した。
 その願いが自分のこ
 とばかりでは寂しいもので
 ある。
 できれば、周りの人々の
 健康や幸せもお願いしましよ
 うと。

道元禅師は「学道は、須
 (すべから)く吾我(ごが)を
 はなるべし」(正法眼蔵随
 聞記)と戒めておられます。

ことわざにも、「情けは人
 のためならず」というのが
 ある。
 若者を中心に「人に情け
 をかけることは、結局はそ
 の人のためにならない」と
 解釈している者が多いこと
 が一時マスコミなどで報じ
 られ話題になった。
 「人に情けをかけておくと、
 いずれは巡り巡って自分に
 返ってくる」というのが原
 義である。

昨年暮れからの寒波が猛

威を震った。
 国道9号線での大渋滞、
 停電や断水によるライフラインの遮断等々。
 米の炊き出しやコンビニのおにぎりの差し入れ。
 宿の提供やトイレの開放等々をTV・新聞等で見て心温まった。
 寒気とは反対に人々の温かさが伝わってきた。

もう一つは「タイガーマスク運動」だ。
 昨年のクリスマス、前橋市の児童相談所前に「伊達真人」名でランドセル十個が置かれていたと報道されると、一気にその輪が広がった。

日本人もまんざら捨てたものではない。
 善意の輪が広がることを願わずにはおられません。

さて卯年の今年はどうな年か？ ことわざに言う「兎に祭文」(馬の耳に念仏と同意)の一方で「兎の登り坂」とも言う。
 条件さえ整えば物事は一気に進む。

秋にはいよいよ本堂の耐震修築工事が始まる。
 順調に作業が進捗するよ

う願います。

本年も一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。

『新しき年の始(はじめ)の初春の 今日降る雪のいや重(し)け吉事(よごと)』
 (万葉集・大伴家持)

お知らせ

お願い

●第三墓地に休憩用の石材机・イスを御喜捨いただきました



第三墓地には圧倒的に鏡地区の方が多いのですが、この度墓地中央付近に、腰掛けて休むことのできるおしゃれな机とイスを喜捨していただきました。

施主は鏡地区・屋号岸添・勝部石材店社長勝部勝義氏です。

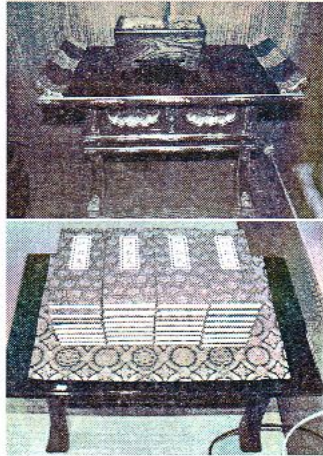
為 天徳華心大姉霊位菩提

●本堂と秋葉堂に、経机を喜捨していただきました

本堂と秋葉堂の古い経机三脚を新しくしていただきました。

施主は弘長寺地区・屋号桑木平・高木 大氏です。

為 大安滋禅居士霊位菩提



●今年の盆棚経は湖南台・久戸地区より開始します。

昨年は内ヶ峠まで終了しましたので、本年度は湖南台・久戸地区・大森・横見・大野・和名佐・大谷・柳井・宍道

と廻ります。

いつものように息子と手分けをして廻れるところまで。

十四日は初盆のお宅に参ります。

葬儀が出来たら葬儀を優先いたします。

(但し、十四日を除きます。)

●今年の大般若は四月十日(第二日曜日)です。

昨年まで大般若法要を四月三日曜日に設定しておりましたが、諸般の事情により(ある地区の奉仕作業とかち合う等)

今後は第二日曜日に変更致します。

なお、本堂改修中となる平成二十四年度は中止せざるを得ないと思っております。



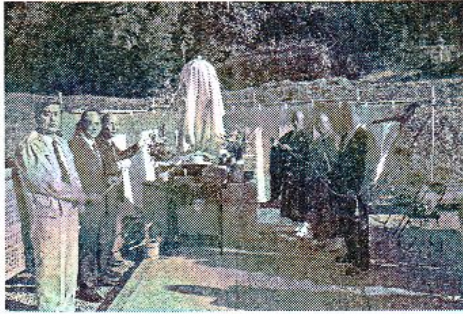
弘法修行大師再建立 開眼落慶法要

十一月二十一日(日)快晴
かねてより地域の皆様の切なる願望でございました。弘法修行大師再建立開眼落慶の儀式が執り行われました。

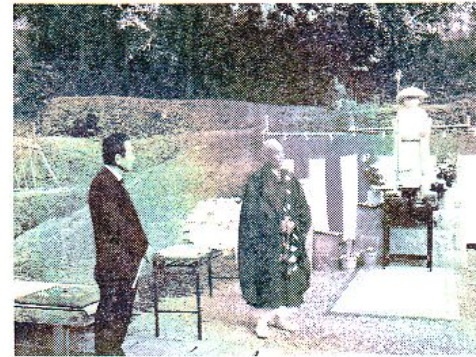
事業費目標をはるかに上回るご喜捨をいただき、誠に有り難うございました。皆様のご信仰の深さに、役員一同頭の下がる思いがいたしました。

導師は佐倉・岩屋寺住職様。多くの篤信者を集めて盛大裡に無事円成しました。

仏天のご加護、晴天に恵まれて弘法様のお陰を感じさせていただきました。当日は世話人：土江幸夫氏、餅米喜捨による紅白餅と、発願主：土江貞夫・渡部俊雄両氏によるみかんが参拝者に配られました。法要後の祝宴も多数の参加を得て賑やかでした。



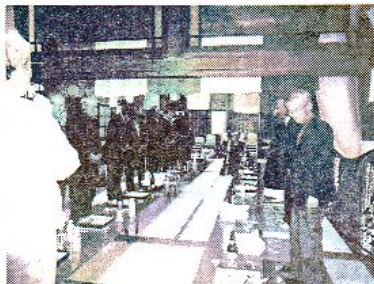
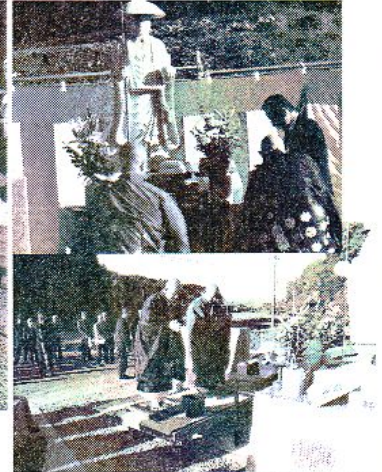
除幕式



岩屋寺様祝辞



開眼・読経



祝宴も盛り上がりました
写真は遠藤石材社長挨拶



発願主代表：上江貞夫氏挨拶

会計報告です。

紙面の都合上、簡単なお報告ですが、詳細をお望みの方は住職まで。

内 訳	項 目	収 入	支 出	残 高
	寄付金	1,491,500		
	祝賀会負担金 @ 2,000	60,000		
	建設費		1,155,022	
	祭典費		191,629	
	通信費		10,000	
	合計	1,551,500	1,356,651	194,849

弘法修行大師再建立会計&喜捨一覽(報告)

多額の御喜捨誠にありがとうございました。
 会計事務は世話人の高木弘宣氏にお世話になりました。

残金は管理費として仕職預かりとなりました。
 この紙面をもつてご報告に変えさせていただきます。

中垣	土江一男	10,000
鏡	勝部洋二	10,000
鏡	勝部弘子	10,000
鏡	勝部浩和	10,000
鏡	勝部伸夫	10,000
弘長寺	武田正興	10,000
弘長寺	土江敏明	10,000
弘長寺	土江光男	10,000
弘長寺	土江弘泰	10,000
弘長寺	勝田久雄	10,000
弘長寺	武田正伸	10,000
弘長寺	高木利興	10,000
弘長寺	土江功	10,000
弘長寺	土江敏則	10,000
弘長寺	高木武志	10,000
弘長寺	高木忠	10,000
弘長寺	五百川久代	10,000
弘長寺	五百川佐代子	10,000
弘長寺	笠谷博	10,000
弘長寺	高木亮	10,000
上白石	森山啓市	10,000
中垣	飯塚哲久	9,000
浜西	伊藤勇	6,000
中垣	石富健二	6,000
東津田	細田豊子	5,000
出雲	伊藤清善	5,000
斐川	服部千恵子	5,000
木次	吉井明日香	5,000
萩田	若月敏江	5,000
浜東	五百川昌	5,000
浜東	坂本清	5,000
浜東	五百川道治	5,000
浜東	五百川美佐子	5,000
池田	山根喜巴子	5,000
弘長寺	土江雅之	5,000
弘長寺	笠谷和良	5,000
弘長寺	武田勝	5,000
弘長寺	土江美恵	5,000
弘長寺	武田ヨシエ	5,000
弘長寺	小林徳由	5,000
弘長寺	江藤悦宥	5,000
弘長寺	渡部保孝	5,000
弘長寺	石富成一	5,000
弘長寺	村竹武博	5,000
小松	梶谷善久	3,000
鏡	勝部健樹	3,000
鏡	勝部一郎	3,000
鏡	勝部宏明	3,000
弘長寺	小山正	3,000
弘長寺	土江猛	3,000
弘長寺	武田健次	3,000
弘長寺	武田正夫	3,000

中垣	土江嘉久	50,000
鏡	土江澄雄	50,000
来待大森	宍道登	30,000
中垣	糸川吉邦	30,000
弘長寺	高木大	30,000
弘長寺	武田善道	30,000
宍道	森山恵一	20,000
鏡	土江広吉	20,000
小松	岸本昌士	20,000
弘長寺	武田安広	20,000
弘長寺	土江幹夫	20,000
弘長寺	石富亨	20,000
弘長寺	岡清弘	20,000
弘長寺	土江不二夫	20,000
弘長寺	石原正忠	20,000
弘長寺	勝田功	20,000
弘長寺	坂中功三	20,000
弘長寺	武田武三	20,000
弘長寺	出富勇次	20,000
弘長寺	梶田寿雄	20,000
弘長寺	勝田澄男	20,000
弘長寺	桧谷久雄	20,000
弘長寺	出富義宣	20,000
東津田	今川吉章	10,000
萩田団地	出川正廣	10,000
浜東	遠藤知己(宮司)	10,000
浜東	野津孝雄	10,000
浜東	石本好悦	10,000
浜東	伊藤輝	10,000
浜東	石本弘	10,000
浜東	樋野好夫	10,000
浜西	五百川忠久	10,000
浜西	犬山信雄	10,000
浜西	烏田剛	10,000
中垣	飯塚康紀	10,000
久戸	小谷功一	10,000
中垣	小豆澤知之	10,000
中垣	糸川武志	10,000
弘長寺	土江貞夫	50,000
弘長寺	渡部俊雄	50,000
浜東	遠藤建	30,000
弘長寺	森田裕光	100,000
弘長寺	今川光雄	30,000
弘長寺	土江幸夫	30,000
弘長寺	勝田幸	30,000
弘長寺	武田民三	50,000
弘長寺	高木弘宣	30,000
当日祝・お供え・その他		
岩屋寺住職	高橋英範	10,000
浜東	坂本吉江	5,000
池田	須田京子	5,000
弘長寺	武田静枝	1,000
弘長寺	対馬栄	500

発願主
 発願主
 発願主
 発起人
 世話人
 世話人
 世話人
 世話人
 世話人

弘長禅寺研修旅行 I

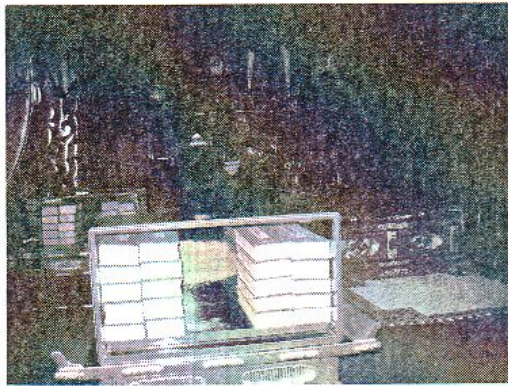
十月十三日から二泊三日をかけて弘長寺独自の研修旅行をいたしました。二十五名の参加を得て、有意義で楽しい研修となりました。

大聖東堂様の修行寺であり、秋葉三尺坊大権現様の本家本元である、可睡斎専門僧堂へお詣りしました。折しも僧堂の堂長様は、お説教にも招きかけたこともあり、私どもにもなじみの深い、元第二宗務所長、安来市松源寺住職・佐瀬道淳老師が、お務めになつておおいでになるものと、えから絶好のタイミングとらえて出発しました。

東名高速は集中工事の真滞
中、何十キロも及ぶ渋滞
遭い、高速を降りて洗い路を
団の管理、事務所で、お手洗いを
借たり、別の国道一線に迂回
借たり、別の国道一線に迂回
憶に、残り旅となりました。



秋葉大権現総本殿にて説明を受ける



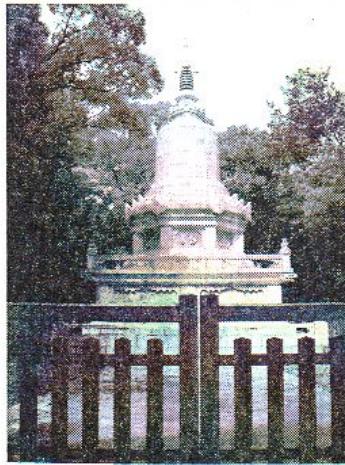
御真体が祀られている本殿内陣を望遠にて



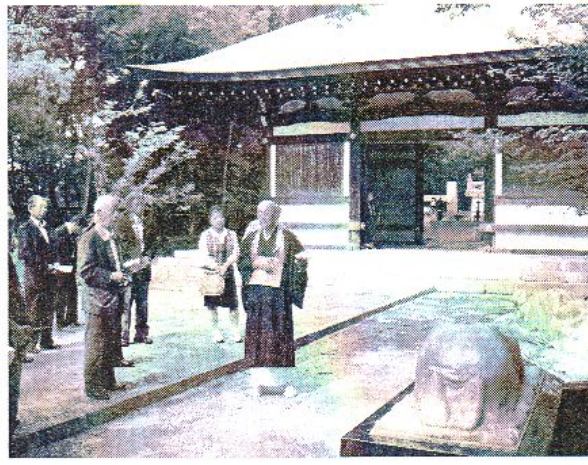
秋葉三尺坊大権現御真体に焼香しました

可睡斎で終始ご説明をして、だいたいは、気象庁を退職された、現在ご修行中の広瀬町大雲寺様(修行を終えるとご住職になられます)でございました。

いつも布部の安養寺の施食会です。ご一緒させていただいていま



御真骨奉安塔



日泰寺は、名古屋市内にあります。タイ国から送られたお釈迦様の御真骨が祀られている、日本の唯一のお寺です。

御真骨奉安塔の前には、お釈迦様涅槃石像と、横で、嘆いて、懇切丁寧な説明を受けました。



参拝さえ済ませば、当然お酒です



立派な本堂でした

奉安塔を後にして日泰寺の本堂に案内していただきました。各宗派が回り持ちで住職を務めると、いう独特のお寺です。

近代的な鉄筋の本堂で、ちょうど法要の真ん中、曹洞宗の修行道場でもあるので、その修行僧と各宗派の僧侶との読経は、圧巻でした。

弘長禅寺研修旅行II

比叡のお山は奥底深い、
 「広大な峰々をまとめて延暦寺」というのです。という説明を聞き、一般寺院との規模の違いに呆然とする思いでした。

横川の道元禅師様得度の霊蹟に向かう途中で、叡山の修行僧二十名ばかりと遭遇しました。
 指導者のかけ声に併せ真言を唱え印を切ったかと思うと、素早く山道を駆け上ってあっというまに姿が見えなくなりました。

天台宗は千日回峰行で有名です。その行の一端を拝見させていただきました。

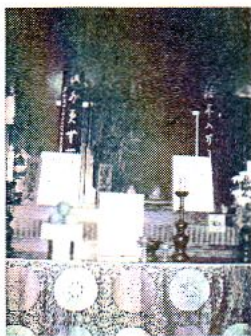
得度霊蹟までの長い距離を、杖をつき、足をひきずりながらも全員完歩されました。まるで仏様に後押しされているかのようでした。



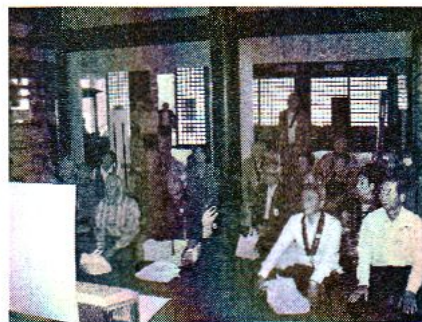
得度霊蹟にて全員読経



旅行の楽しみの半分はこれですよ



大講堂：道元様御像



大講堂にて説明を受ける

信長に焼き討ちされた魂が騒ぎ出すのか、根本中堂（撮影禁止）は特に靈氣を感じる場所です。
 お山全体が聖域そのもので、エネルギーをいただきました。



弘長寺護持会 比叡山延暦寺参拝記念 平成22年10月15日

首座法戦式について

〜三大出世の第一番目〜

仏門に入り修行した小僧さんが長老になる式を「立職式」（立身式）とい

この「立職」は、曹洞宗において三大出世の第一番目となる大切なお祝いの式であります。

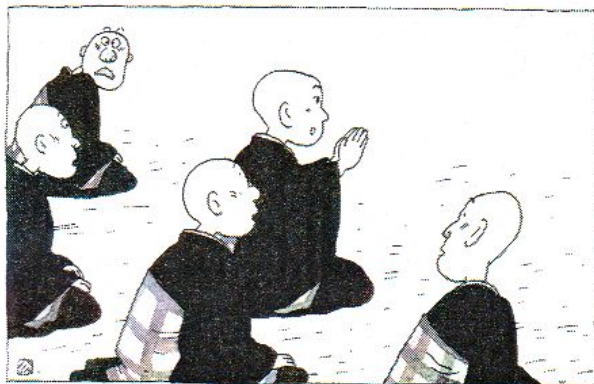
満十六歳以上の年齢に達しないとできません。

住職が「結制」という祝典を行う場合、必ず長老になる小僧さんが必要です。

長老のことを「首座」とも「第一座」とも呼びます。これは大勢の修行僧の中の第一人者・首席・リーダーとして先頭に立って修行し、勉強し、精進することからこのように呼称します。

普通世間一般に「長老」というと博識で威厳のあるお年寄りというイメージがございいますが、儀式の建前上若くても修行僧の中のトップリーダーと位置づける必要性があるものですから、現実にはイメージの乖離に

よる違和感があるのも事実です。



その長老は十六歳以上です。ですから高校生がする場合もあります。

しかし、立ち居振る舞いが一番ピシツと決まるのが、修行道場に安居（修行）している雲水：修行真つ只中というお弟子さんが長老をした場合なのです。

住職は今まで、多くの結制・法戦式に「法要解説・司会者」として随喜しているものです。ですから、それが解

それで、息子の大裕が来年修行道場に入っている時

こそが最適なタイミングであると思つています。問題としてはきちんと大学を卒業出来なければ何にもなりません。ただひたすら順調にことが運ぶことを祈っております。

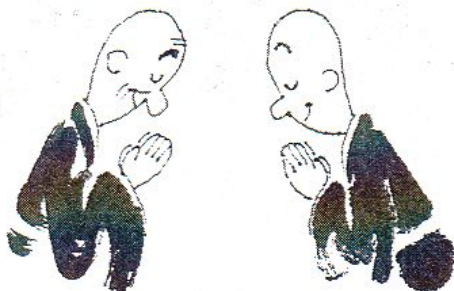
立職の式はまず首座の入寺式から始まります。これは一定期間（九十日が原則）そのお寺で大いに修行させていただくことを誓約し、その座席を定めてもらい、他の方丈様方に挨拶・お願いする式です。



次に、「法戦式」といって問答のやりとりが行われます。

これは長老にとって晴れの祝典において新調の白衣

を着け、祝衣に身を包み、大勢の御寺院様方、檀信徒の皆様の前で力量を示し、修行について問答をかわす儀式であります。



この式中、住職（法幢師）に對し、或いは随喜御寺院に對し、鄭重に何度も礼拝をいたします。それは曹洞宗の命脈である「威儀即佛法、作法是宗旨」という、形を整えることが心を整えることに直結することになるからです。

どうか大裕が立派な後継者になれるようお力添えをお願いいたします。

合掌